

議案第3号

洞爺湖町における部活動地域移行 の現状について



洞爺湖町部活動地域移行検討委員会

部活動の地域移行とは

部活動の地域移行とは、スポーツ庁・文化庁の有識者会議で提言された、公立中学校における休日の部活動を学校外部に移行する部活動改革の1つです。

従来の部活動では、主に教職員が指導を行いますが、部活動の地域移行では外部の部活動指導員※が行うこととなります。

令和7年度末までを「改革推進期間」として、まずは休日の部活動を地域移行に向けた準備や部分的な実践を予定しています。

※部活動指導員とは、顧問教諭に代わって部活動での指導や引率ができる学校外の人員です。



部活動の地域移行が進む背景について

中学校での部活動の地域移行が進められているのには、次の2つの背景が関連しています。



少子化による生徒（部活動）の減少

教職員の働き方改革

少子化による生徒（部活動）の減少

全国の公立中学校の生徒数は、1986年をピークに右肩下がりとなっており、洞爺湖町においても生徒数の減少が進んでおります。

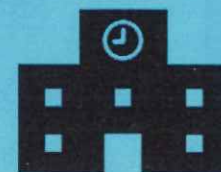
全国的に今後もさらなる生徒数の減少が見込まれており、今後、生徒数が減ることにより部員が集まらない部活動が増え、特にサッカーや野球などのチームスポーツが出来なくなる状況が考えられます。

令和6年度	小学児童数	4年生	5年生	6年生	中学生徒数	1年生	2年生	3年生
虻田小・中学校	72	24	22	26	106	22	43	41
洞爺小・中学校	32	15	7	10	26	11	10	5
洞爺湖温泉小学校	21	11	5	5				
合計	125	50	34	41	132	33	53	46

複数の学校生徒が地域移行によって集約することにより、人員の確保につなげることができます。

教職員の働き方改革

中学校の部活動で指導を担当する教職員は、平日の授業に加え、放課後に部活動の指導も兼務することにより、恒常的な長時間労働に繋がっており、さらに休日においても指導や大会への引率を行うことにより、大きな負担となっていました。



地域の人材が部活動の指導を行うことにより、教職員への負担を軽減させることができ、より授業への注力がしやすい環境の整備へとつなげることができます。

洞爺湖町におけるこれまでの取り組み

① アンケートの実施 令和5年6月

小学校高学年と保護者、中学生と保護者、小中教職員、各スポーツ団体・文化団体に対して部活動の地域移行についてアンケートを実施し、地域移行に概ね賛成との声をいただきました。

② 「部活動から新たな地域クラブ活動へ」をテーマとした講演会を実施

令和5年11月

虻田地区	11月20日
参加者	27名
洞爺地区	11月29日
参加者	18名

③ 検討委員会の設置 令和6年4月

中学校長、スポーツ関連団体、文化関連団体、社会教育委員、中学校PTA役員等の関連機関により検討員会を設置しました。

部活動の地域移行により考えられるメリット・デメリット

メリット

- ① 専門的な技術を持つ外部指導者の指導を受けることができる
- ② 人数が足りず実施できなかった部活動が可能に
- ③ 教員が指導経験のない部活動を持つことのストレス軽減が図られる
- ④ 部活動指導にあてていた時間を授業準備やその他の業務に充てれる
- ⑤ 休日に部活動指導を希望する教員は、兼職兼業の許可を得て地域活動の指導を行うことができる

デメリット

- ① 地域移行により、会費・施設使用料等・送迎負担がかかり保護者に負担が生じる
- ② 平日（部活動）と休日（地域クラブ）で指導者が異なる可能性がある
- ③ 指導の過熱化
- ④ 部活動に対応した指導者や活動場所を確保できるか
- ⑤ 指導者には、技術的なレベルだけでなく、生徒との接し方などの配慮も求められる

各中学校の部活動の現状について

虻田中学校

団体

- ◆バトミントン部～1年生 3名、2年生 7名 計10名
(教員指導)
- ◆女子バレー部 ～ 1年生 2名、2年生 2名 計4名
(教員指導、外部指導者)
- ◆サッカー部 ～ 1年生 5名、2年生 9名 計14名
(教員指導)
- ◆吹奏楽部 ～ 1年生 4名、2年生 8名 計12名
(教員指導)

個人

- ◆柔道部 ～ 2年生 1名 (外部指導者、少年団所属)
- ◆剣道 ～ 1年生 1名 (外部指導者、連盟所属)
- ◆水泳 ～ 2年生 1名 (外部指導者、伊達スイミングスクール所属)
- ※野球 (西胆振ユナイト) は、部活動の地域移行として
中体連に参加し受益者負担で実施
- ※野球 (リトルシニア・硬式) 部活動とは別活動

洞爺中学校

団体

- ◆吹奏楽部 ～ 1年生 8名、2年生 5名 計13名
(教員指導)
- ◆ソフトテニス部 ～ 1年生 0名、2年生 2名 計2名
(教員指導)

個人

- ◆柔道 ～ 人数不明 (外部指導者、少年団所属)
- ◆スキー ～ 人数不明 (外部指導者、洞爺湖スキー連盟所属)
- ◆剣道 ～ 人数不明 (外部指導者、所属不明)
- ◆陸上 ～ 人数不明 (外部指導者、所属不明)

※R6年度の中体連まで大会参加可能。募集を停止し、
R7年度からバトミントン部へ変更し虻中と合同を検討

※スキー、剣道、陸上の中体連参加は不明

地域移行に関する検討課題

「洞爺湖町部活動地域移行検討委員会」を設置し、検討を進めてまいりますが、地域の受け皿や指導者の確保、報酬等の予算や会費のあり方など、課題は山積みしています。

- ◆地域移行の早期実現 ◆学校規模や生徒数に応じた部活動の適正化
- ◆部活動の運営手法（合同部活・拠点部活・地域クラブ化）
- ◆必要経費の負担（保護者負担） ◆指導者の確保 など

これからの取り組みについて

洞爺湖町部活動地域移行検討委員会で検討された内容結果をもとに、学校外の指導者確保をはじめとした準備を進めていき、令和8年度からの土日祝日の地域移行について段階的に取り組んでいきたいと考えています。

部活動の地域移行については、一つひとつきめ細やかな対応が必要となります。

課題を解消していくには、「行政」、「学校」、「保護者」、「指導者」、「スポーツ・文化関連機関」の連携が不可欠となります。